



蕪村七部集

上



其電影明鳥 一從四拜仙 極李  
續明五 五車反古 花き等

俳諧 無村七部集

書坊

懐潜格 玉仙仙古 堂堂堂堂



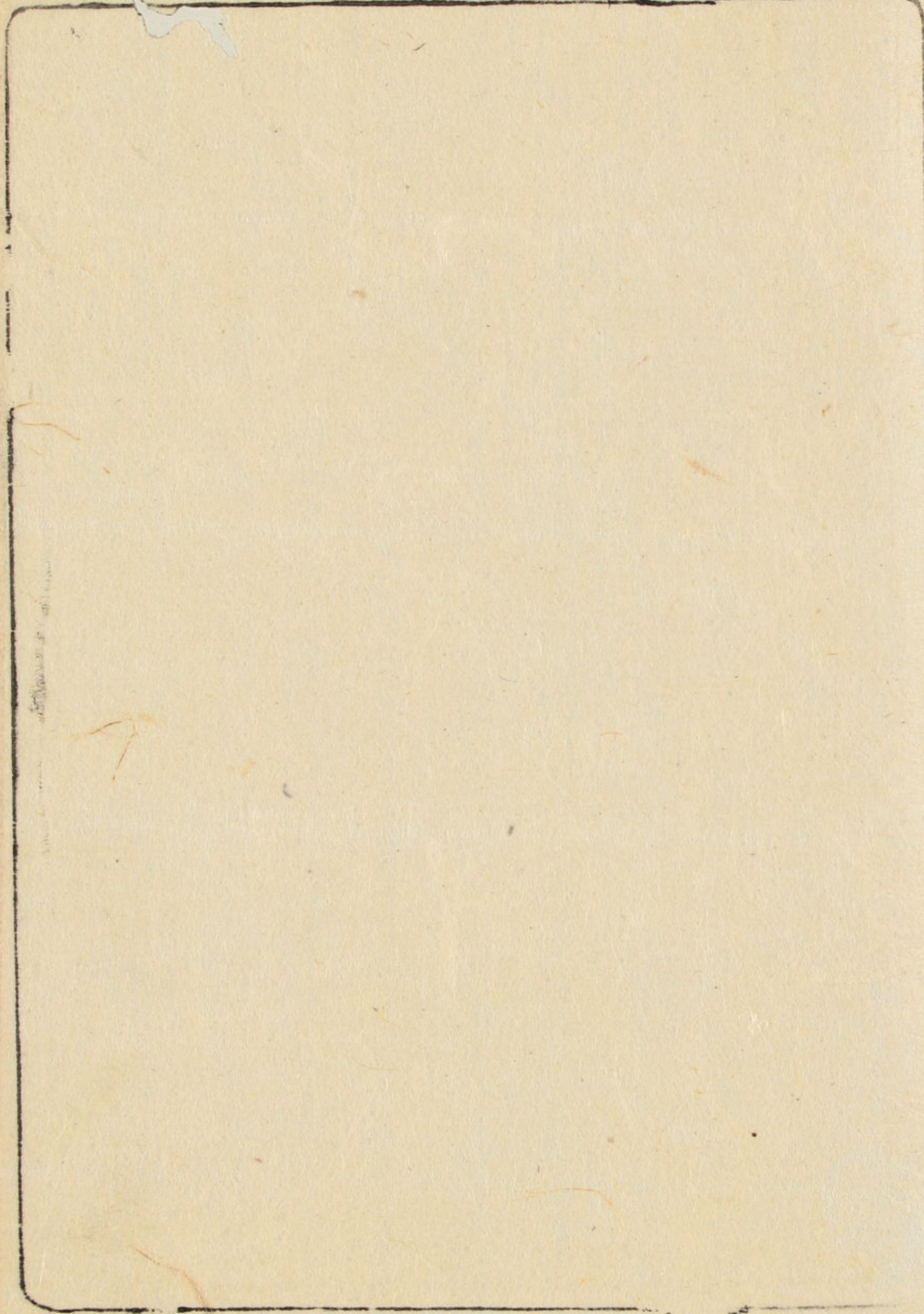
Handwritten text in cursive style, likely a preface or commentary, enclosed in a rectangular border.



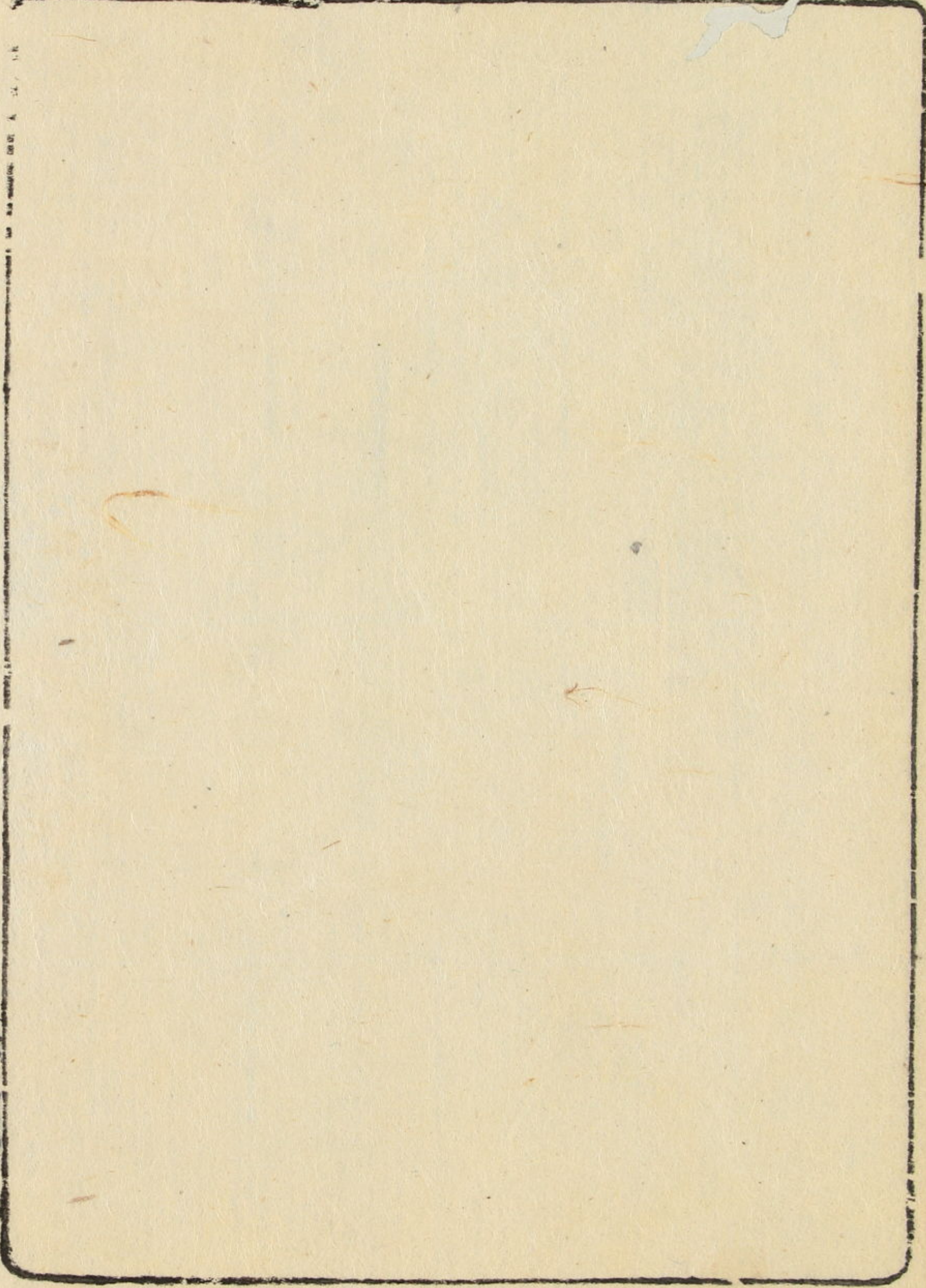
業に  
 のや  
 元  
 子  
 我  
 多

共

の  
 又



11 - 2000/11



其雪影序

かくや上侯伯より下漢遊りてみよし中て俳諧  
をなすもみけあしそわらふ中よ「やあまもり」を  
存せりてくしりきつてし思ひし京探のほ三四  
指とをなとるもいふもいふもし三四者の誰  
凡主女と指と顔やり主とくあ巴くを電り  
口をきひてくしり真幸に傲るのくしり  
中を電りほよあて其聲牙に化せしれを編  
修終平経をもりてくしりよ婆たをも書か  
きよりてくしり奥あつてくしり生らるるも  
ま

主あつものあひく或きくし人持せ徳  
のあつた句と得てし則と主流よりや  
くよあつて一あつ編つてくしり三四  
其子几董小冊子を編て又り魂をもつ  
せり追善集つてくしりやうらやうら  
ち熱や青蓮の句とありてくしりくしり  
酸月のやうと拾つて肉女顔繁難組して  
まつてくしり余曰らるる又又り意くしり  
高堂にくしりせりしてくしりなよ会珠を  
くしりてくしり名まろしく尼法修くしり  
はくしりやしく看ふくしりくしりくしり

骨床をたすはともしのりけり眼より  
とすし竹れ几董之共備其幾乎

羽和壬辰秋

夜半亭燕村書

二



景文德

其典村の河乃竹はよ謝名は密ヒシくつゝ  
 字ナリと表合の事とねんてふ長やさしと字ナリ  
 ともたは松明のくすけしぐさ成り  
 任るわし風雅にんせよそく人トありて  
 酒のさしとてしと唐伝にそまげとて  
 借るくともぬる竹のたふより業あり  
 けと其のけうとてしとてしとてしと  
 芭蕉事とてしとてしとてしとてしと  
 能清海東とてしとてしとてしとてしと  
 竹のそとてしとてしとてしとてしと  
 ともよ中興の事とてしとてしとてしと

松竹梅

晋其角

きんぎょ

ひり

くさき

し



芭蕉翁



古くは

蛙の池

うらな

高き

ふ

その

名

あ

う



雪中庵芭蕉



郢月泉巴人後以巴人為菴号  
更名宋阿別  
号夜半亭

啼あゝ  
川こゝろ  
禪の  
の歌ゆ  
鹿忽  
風乃そこ  
あゝそ梅のそ



夜半亭蕪村画  
門人高儿董書  
高儿圭後更名  
宋是号儿圭庵

其書

晋子晋中へ蕉翁乃羽笑ふり晋子晋中  
の巴人菴宋阿別のた石れ降く竹ゆえり又  
先くうはあひりされい其まの緒の西まを  
もて作一和はあなり第とたう  
斗のし肖像とまうとまうとまうとまうと  
若くう田ああるい々ああしゆる夜半の句  
と拾ひ又うあるとはくく又うあるとあ  
とあうと

儿董

子鬼  
 舟楫の記  
 漢のまき子 養う生 植 几童  
 不き人のよきまき 實は画しん  
 竹下まきわく 飯乃相伴 曳  
 舟中舟の定まりせの月いふ  
 一しころ 隅にうきまのつふま  
 長復うし角力けの事とつて在  
 花やたうしとくまの動定 曳  
 三日おの廊とくわの坊つて 董  
 んりしとくまのふとくま 曳

其書  
 九



ふれへたりし花の白びに  
葉の中よりうら氣のしる目  
枝よりきねとらりし花二本  
葉とちふきなり菊乃ちき日  
董 史  
董 執華

大しげ月もあけ成おきか  
秋よりうらりし鶴一番  
やへ洋醪醸漉賣もんまひ  
遠山より遠山傳し  
新風に水主も鳥帽子をさる  
董 村  
竹 董  
董 村  
董 竹護

日記も肩にちりしる  
宮見のしれ下陰よ葉より葉  
魚芥乃情を所をしてん  
遠るものしるしるの惟然坊  
ふん華終了人律八町  
冬をりしちりしやまきり  
あれ衣清くたきりし  
葉くらり行をよのわらひ  
しりし大消くしるのしる月  
俵よりし鳥もふり森へゆく  
稻活の昔も人も入来三空  
董 村  
董 護  
董 村  
董 護  
董 村  
董 護  
董 村  
董 護  
董 村  
董 護

用のありけりノ盡ノりええとく  
苑瘡林乃小きくしノまれ  
土佐約に光輝く詩ノ後  
五回の内乃くくくくノまき  
かいつけの干方うつノ狂遊子  
書記も典目と寂泰の作  
狂とけうりつノも又暮を丹  
乃い人質乃くも去ノり  
一妻ことわとあを憐ノく  
意平トくゆる書乃衷  
ゆふに月像くくや千彦  
董 護 村 董 護 董 護 董 護 董 護 董 護

黄毛村千彦と追入聲ノ村  
肌きくわ尚の疵氣櫻ノく  
くく街く二人ノまき  
長中益飯く成にノり  
降くくくく仕舞ハ專  
後ひも胃の強ノく旅ノも  
今くく意を控ノく人音  
不二代ノく色香江井ノく  
くくふくくくく美川ノ直  
董 護 村 董 護 董 護 董 護 董 護 董 護 董 護 董 護 董 護  
執筆 馬南

巴又十三回懷舊

うしゆの  
曉さよふさうか

明和壬辰之冬

小子高儿董拜書

か  
紀  
字  
の  
ま  
ま  
の  
ま  
り

宗好

郭

云

山  
出  
一  
れ  
掛  
ハ  
ぬ  
ま  
を

儿  
画

れ  
か

右夏冬一紙兩筆の及古ハ高子舎の  
画中ニ藏し今追善の後ニ録

春夏之部

まはれし終日のさかしくりぬ

燕村

船りし舟の舟を舟の楫と

几董

千金の舟を舟と終るしりる舟

子叟

山中舟序ふ歌く降ふり

為拾

伏見南山遊記

多きししりる舟につくまらぬ水

移竹

五葉の舟を舟と終るしりる舟

几董

凡くしりる舟を舟と終るしりる舟

旦尔

昔の舟を舟と終るしりる舟

一扇

舟の舟を舟と終るしりる舟

召岐

あつらひのきくみちのふりかへり

太紙

暮春

ゆきふのまきまら日教水 五律

日けちをほつてのそまのこ 斗文

うたふまは之度やとらなる 几董

あつちうくひくまらうら 朱英

るましと笑て下もふ齊し 壺角

くつちうの暖湯よ遊らん林き次 牛行

ゆきや竹乃休らうと成にたり 烏西

雪や一本に千枝千刈れり 百池

雪代やあつねえ柳一橋のま 几董

卧龍梅とくふらう

んつやまき系をうめうあつたうふ 勿説

ふにふらや系とさううけ馬信 蕪村

ふらまや葉乃とさうまらうら 馬南

被んちや融氷のうらふ二こん 几董

詩と平は口も酔うあつんちれむ 九湖

ふつと竹のうく月たうら 南雅

ふつちやうたうらうむ町乃松 鼓舌

あつちやうたうらうらうら 三峽

一甲は二やうらうらうら 三四坊

川はうたうらうらうら 鄂里



赤の糸と披ひを木の柙りや  
 林麓うへへはあききぬ日か  
 七つにうへへはあききぬ日か  
 その風は清くやけいふりか  
 秋のうへへ鳥のやけいふりか  
 雪のうへへ鳥のやけいふりか  
 春のうへへ鳥のやけいふりか  
 ちりールまの御の志あききぬ  
 都方よりやけいふりか  
 松代よりやけいふりか  
 うへへ蛇のうへへはあききぬ

乙仙  
 一鼠  
 其 知州  
 如本  
 子鳳  
 李完  
 蝶夢  
 宋屋  
 羅江  
 几董

花のうへへ鳥のやけいふりか  
 えりやゆきとあききぬ日か  
 あききぬ鳥のやけいふりか  
 那鳥のうへへはあききぬ日か  
 葉のうへへ鳥のやけいふりか  
 女はうへへ鳥のやけいふりか  
 淡足乃鹽とあききぬ日か  
 旅のうへへ鳥のやけいふりか  
 旅のうへへ鳥のやけいふりか  
 枕のうへへ鳥のやけいふりか  
 舟のうへへ鳥のやけいふりか

武然  
 紹藤  
 舞西  
 祇空  
 管鳥  
 徳圃  
 燕村  
 春武  
 晋才  
 土髮  
 几董

らゆりや二とらふるをまゝなり 下 柳居  
盆もりの荷ん牡丹うねり 嘯山

ぬ仕

蛇乃るるもせぬころゆき 杜口

くあつた戸あつらん夏の日 鳥門

寐しつたよのくろ一ね後 和流

川下に寝ほもゆるをよの蔬賣 光甫

毎年の長はるるやらつよの 三角

らんりやとん付のころ旭小 春海

やういせの竹丈積ん五月日 十拾

よあつたあつたに垣根の 免足

其書 十三

亂上もめで可也とやきん初終 沙月

つやう中の熱くあつらん二人小 水翁

ゆかしたちとあつらん二美ふ 由福

咲ん乃一言あつらんきこ 名波

あつらんあつらんあつらん 維駒

蓮もあつらんあつらんあつらん 羅雲

干綱り一平のあつらん 東武 恭里

梅の木やあつらんあつらんあつらん 五律

葉あつらんあつらんあつらん 青畷

小豆餅あつらんあつらんあつらん 子叟

掃りぬのあつらんあつらんあつらん

けしきん月梅うけし白やき  
都へ二儀のうりや森入たり  
ぬる水うさうけし田うく  
田彦のサロうり牡丹山  
新日しり先へ園きし蓮うさ  
よりゆり乃月もはまや道のと  
よも足も口も只なま田括うさ  
原汁桶の梅も入うん更え  
あも俵乃地とさあや長く  
ふりしうさあそ母はやのま  
うらちやねいねすのね

自笑  
鉄僧  
几董  
馬南  
来爾  
曲室  
九湖  
魚赤  
几董  
百池  
うさ

古井やぬりふふ奥のま園し  
たまそへ燈にまきやひし  
夕風しあまあひらぬや  
け骨の紀しりふさやま  
うらなまをめいしてあし  
こころや森うさ窓のぬりけ  
まやうさやり大橋し森入たり  
おのま乃舟し能うりさつた  
祝よは余のうさうさうさ  
日まもや輝いの城まし  
橋多村のうさうさ

蕪村  
竹護  
匡英  
如本  
芳茂  
明五  
文皮  
徳野  
渡牛  
銅文  
几董

茶飯乃さつこ物さるる暮るこみ  
夕さゆ中さるる傘乃りひさし  
共  
周未  
下  
栢延

聞悉

少さるるあつたつらんも栢うみ  
太祇

書意無眠

雪の回つる風うさささほほるるさ  
幾董  
蕪村

わさきん晴しや本道路のぬき  
素山  
几董

常らんや本音周り舟をゆ  
喉眉  
素山

さうれきしとらんや雪のふもあれ  
孤相  
几董

おろしふ雪路さうけるぬき  
几董

よりの火の傘下もよるる雨  
素山

らんき名ももくこわらつた  
五始

今もあつたあつたあつた  
風状

あつたあつたあつた

今もあつたあつたあつた  
仙鶴

秋冬之部

踏取し足ささるるやけさのね  
瓢水

やろくさあつた鳥あり十三  
社口

晴し鹿や昼さるる船の志ね  
栢炎

清光の目とよもよめるよのかり  
五反

けしきろふ機織虫のねまてつわ  
 光のけしきをいりてはるる  
 雲のふも竜乃都を霧のほ  
 白き乃のちるカヤ草乃丈三六  
 曉の雷鳴おこしけをれれ  
 ふふさる今の蔓や今ぬのね  
 けしきろふあつふ子とまのねと  
 ねけしきろふあつふ子のつと門違  
 ぬの石もよまてつわ草乃乃あ  
 依雨

市平

けしきろふ市平隣の蔵も修慶の  
 几童

秋の音毎日あつてはるる  
 海風乃人のくさくさふり  
 竜松や嵐もつらぬあつてはる  
 心あつてはる島の外へくさくさ  
 子とまの存風とあつてはる  
 元山ろ角を本朝やと麻のあ  
 名乃乃燈亮もあつてはる  
 酒買乃千里乃あつてはる  
 名月やあつてはる  
 花乃あつてはる  
 名とあつてはる

肅山  
 雅因  
 西遠  
 季迅  
 也好  
 且尔  
 誠子  
 几童  
 竹譜  
 孤舟  
 青咲

名月や花の人のさふ人の事  
 獨をちて入口とちて秋のくれ  
 の六つとちて入口の秋をちる色  
 名月や下たれ真なる飛引ん  
 羽をちてうららぬを痛くとり  
 ぬらうららぬをちてうららぬの月  
 名月や花の人の鼻乃光  
 粟やしもちてた月や霜のや  
 名月や花の人の霜雪のうららぬ  
 夢ものつふふふたりけさの秋  
 春尔

南雅

樓川

田女

多少

宗専

嘯山

嬰丈

白麻

俵雨

二負

春尔

天坊乃んととふんあらり秋  
 のしり苗一もちや秋のふ  
 めこのふ町う里やととし水  
 ゆまのりや迫の秋もすゆめ  
 うららや秋乃ととれきらとく  
 見足ぬととくちとくちやあれ  
 鏡輝作開も若めぬ秋中か  
 雲をちてしとく月さし已う門  
 若くはしとくふとく女まゆ  
 羽やしとくふとく秋中  
 夕うららとくふとく秋中

舞間

几董

蕪村

羅人

几生

雅因

雁宕

太紙

呂波

田福

蕪村

何能けや借火とそりしうくぬ  
拈来うきむり出さるしうれぬ  
子哉 斗文

旅行状天

あけふのやありぬのすれき本と  
水より先へ碎ししを備うを  
馬南  
おれやふの凡乃を海やとる水  
為拾  
うき乃おりよぬの雲おれ  
五律  
うきよの世ひさのや文一うれ  
太紙  
天津乃やよさぬまにる紅り  
虹竹  
水し移やよむらぬぬ配を  
山竺  
かきこもし脊三のうらぬふり  
之房

夏瘦乃むしぬぬ鳥や種なき  
健月  
うのややうりしうき半車  
三貫  
ゆりしやうりしうき積る茎の名女  
とく  
うりしうり人けりぬりけ能汗  
白麻  
竹しうりしうりぬありぬれ  
尾雪

報の毒うりありし海やぬれ  
うきよのうきよのうきよ

おれしうりしむ

うねるうき全報乃蔭のる女  
吞柳  
蝶拂し海子張るや柄一枝  
、  
小角力りぬきぬ賣師きす  
丑二  
人らうきぬり能と洗らん  
太紙

ささげふはと判くしうくわ  
うくけ乃系遠てつる二様さんか  
背くわろより隣乃巨龍か  
新甲のまろこいあつふ衣か  
毛體より病くろくの山もろ

きつね

望月夜ふらふらわくわく  
虚や燈のあひうさる枯せか  
しつるやまをくわりにくわく  
零露を關寺細くゆゆか  
衣ま啼きとほくの巨龍か

望戸庭の中い早なりくわく  
飯けや鶴乃くわくくわく  
うくくわく喰也寝ふあつあつ  
けまろくくくくわくわくわく  
段子の年負くくくわくわく  
雪折や雪と湯くくくわくわく  
戸にた乃麻くくくわくわく  
あひまやんくくくわくわく  
磨の系碗もくくわくわく  
あひまやんくくくわくわく  
くくわくの海篇にふくくわく

必化 蕪村 漆翁 波光 権序 孤舟 風流 斗迦 几董 竹表 土丸 猫帳 斗文 賀瑞 柳女 霞吹 蕪村 龍眠 恭里 阿誰 賈明



太刀柄の雪ふこらんてんてん  
 四布五布身れくれ家のうらんや  
 かりにやらうの枝を枝を  
 やしつし冬にやうふあうや  
 貴くしてひらうあうあう  
 けううあうして懐ふして居貴  
 千一の森へ雪ふてまて里須  
 河棠乃又葉のまをぬりる  
 や一の福ははうして懐を芥根ら  
 めてからひらうあうあう  
 白ゆや雪ふりすうてんてん

旨原  
 存義  
 三蝶 大坂  
 漁焉  
 来雨  
 曲室  
 芦官  
 来也  
 盛佳  
 関し  
 嶽州

其書二十

豆腐沈まされるやう今佛  
 一袋一袋のくもくもく  
 うわらたの根ちり葉のりや雪結  
 けうやう今あひ縁乃美門を  
 さうしてらあうあう  
 存義のさうよ田舎の清少  
 是れよけりけりけりあう  
 めいさあう乃梅やんさう  
 流し流し流し流し  
 きききき

有種  
 暮牛 廿五  
 麗白  
 随古  
 必化  
 多少  
 移竹  
 竹護  
 子史

早午の若くはわらわらわら

夙々起してさよりの目かまらざる

几童

あはれなる鳥の鳴き声にうたがはす

泉是

あはれなる鳥の鳴き声にうたがはす

泉阿

あはれなる鳥の鳴き声にうたがはす

跋

凡主の心はさうな事なれば、能く其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

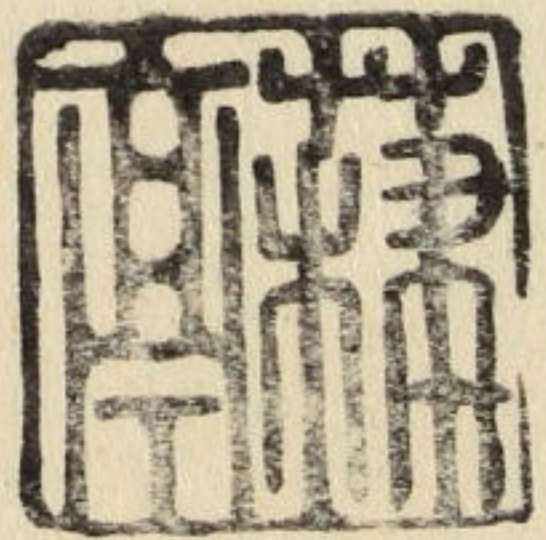
は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

は、其の事を知るは、其の事を知るは、其の事を知る

其白もこころいふせいのまじりてふれはうき  
まじりてふれはうき梅路希園のまじりてふれは  
向ふ酒やこころいふせいのまじりてふれは  
ありてふれはうき且よ子且よと懐かし  
おのゝ軒端にちかたに花苞在りてふれは  
風乃年のちかたに其まじりてふれは  
うきに窗にけり入付もあはれにふれは  
りてふれはうき且よ子且よと懐かし





一してぬき一かきの青尾とてなりかきと依もよらりらん  
 ふうそひそふゆの園とて歌ひゆるふや遊びしゆも規  
 の一声にきかすわうとて惟よぬの信とてわ音よ也  
 えちのけしとて大羽鳥かーけしきん  
 舞向のくしきしとて其の歌をて羽鳥をてはなん  
 けしきしきしきしきしきしきしきしきしきしきし  
 けしきしきしきしきしきしきしきしきしきしきし  
 けしきしきしきしきしきしきしきしきしきしきし  
 安永文也いれ

高九董書

いしきんちたき明のくきか  
 橋よらりい 意 乃 南 馬南  
 まくらり精米一俵とてらりて  
 けいもあぬしとて羊とてらりて  
 けいもあぬしとて羊とてらりて  
 けいもあぬしとて羊とてらりて  
 本槿の垣乃隣とてらりて  
 えとてらりて佛常とてらりて  
 傘の心を後とてらりて  
 きりた袖よみとてらりて

几董  
 南 董  
 南 董  
 南 董  
 南 董

井 五月 三 ねん 人の まゝ  
 まゝ ねん の まゝ ねん ねん  
 阿 彌 しゃん ねん ねん 骨  
 ねん ねん ねん ねん ねん  
 是 ねん の 幸 ねん ねん ねん  
 鬼 柳 の 灯 の ぼん ねん  
 新 の つ 月 ねん ねん ねん  
 ねん ねん ねん ねん ねん  
 ねん ねん の ねん ねん ねん  
 小 ねん ねん ねん ねん ねん  
 大 雪 の ねん ねん ねん ねん  
 南 董 南 董 南 董 南 董 南 董

肌 是 ねん ねん ねん ねん 傾 城 董  
 川 の ねん ねん ねん ねん 浪 荒 よ  
 七 ねん ねん ねん ねん ねん 董  
 業 乃 乃 違 の 矢 命 宮 ねん ねん 董  
 乃 乃 ねん ねん ねん ねん 董  
 酒 乃 律 ねん ねん 濃 株 と ねん 董  
 酒 の 乃 乃 冠 若 ねん ねん 董  
 ねん ねん ねん ねん ねん 董  
 ねん ねん ねん ねん ねん 董  
 行 乃 ねん ねん ねん ねん 董

この文も正八指と圓くふ  
海乃新りれ都一とれ暮る  
らくくあつちりの花よ培ん  
名何さくくともあ乃ま  
南

春三月於高子今興行

ふゆらの滝ゆるらわて壘うふ  
掃ちきりくる庭れま凡  
ふにくの物のみさくうらふ  
杉の姿乃白ひゆうー  
根々川の流るる夏の日  
嵐甲

九湖

キ董

路叟

万容

嵐甲

ウ

園おらふさうしろふてくむ  
小まやし軒乃瓦のさうくさ  
昼うささかすれ建しんす  
人津よし廊のなるとおん  
うつりふほくものへり袖  
つれしと死よと物さうて  
のくろ福一とまらくく  
まふおらさるおらさる角のふ  
乃くくも持つよさ義乃さ  
桑柘中井田と名ふ碓氷山  
腹と減しふくさくしとち  
キ湖 尚 角 叟 容 甲 湖 雄 尚 芦 角

尚 容 甲 角 湖 角 角 湖 甲 角 甲 角 尚 容  
カ  
其の終るもとて望んじうとて  
終るの終るに汗の意  
まらる他人まらるの連行  
これのよきまらるの一森  
所信に礼にまらるの終る  
夕風にまらるの終る  
わらわの終るの終る  
うらまの終るの終る  
大小の終るの終る  
橋の終るの終る  
姑の終るの終る

尚 容 角 角 甲 尚 容 角  
西の終るの終る  
其の終るの終る  
其の終るの終る  
俱の終るの終る  
此の終るの終る  
終るの終るの終る  
橋の終るの終る  
其の終るの終る  
其の終るの終る



夏卯月朔時會

庚け桶の桶も入らんころも

魚赤

垣乃あるふふさぐるやうも

上九更 几董

このめれ駒牽つて寝おちて

栗丸

角力うー呼んでるまきの名

竹裏

中ねも十らちどりの昼の月

春蛙

後子つねの蘭のみちく

桃牛

勅定の撰集半成就

布立

睡りく白髪ひも

赤

花ちりそ若酒の料ね

董

あましと夕たぐねる

丸

差つてぬ力乃重ら

堤

糸うもふううあう

春

おのころもまじり

牛

裏ハ隠左ハりあ

立

梵通子て鶴の巢

赤

後子一丸

裡

とくしと月もあ

立

あましと

丸

佛多依は

春

位名うて

牛

月さし

丸

干繻乃市とやん送る風  
 帷子の糊もまじる中の峰  
 うらん下結くく女まぐり  
 りるけし不面目もあき蓮の園  
 納へもゆるむ新念入中  
 後くもも居り別くる四巻巻  
 美くくはらなるさる乃葦  
 火の傳の小使しけきおまの月  
 着あきくくくくくくく  
 瓶玉乃杯酒とさるふ下下  
 腕へくくく病氣引はる

董 裡 赤 董 裡 立 牛 春 赤 立

形の雪をかまかりくるやう  
 桑養乃餅と飲くくん  
 若くもくもまきくくく  
 くるくくきくくくあるまけ日

春 牛 裡 瓜

四季混雑

不二ひら埋くくくくく  
 蜂ハ魚の蛇の信もるまはま  
 ちけはのやもたせり梅乃夢  
 ちりかのからに動く梅門  
 池くくくくくくくくく

蕪村 九嶷 魚赤 竹裡 万容

雪乃清くもくもくもくもく  
異國の僧もみりて蓮んか  
うくもくもくもくもくもく  
酔て病もりてもくもくもく  
さくもくもくもくもくもく  
りもくもくもくもくもくもく  
ほくもくもくもくもくもく  
右 懶乃ほくもくもくもく  
堀 堀乃くもくもくもくもく  
一 顔もくもくもくもくもく

納涼

キ董

嵐甲

路曳

キ董

芦角

布立

亀公

雄尚

梁氏

馬南

鳥く株のまへに柳うか  
靴の面うまへに白眼か

峡中帰

蕪村

老樹ねくわくもくもくもく

古らや月れくもくもくもく

サくねくもくもくもくもく

戀くもくもくもくもくもく

つくもくもくもくもくもく

舞くもくもくもくもくもく

却きりや二人くもくもくもく

川くもくもくもくもくもく

五律

斗文

子史

キ董

也好

雅馬

几董

西羊

後世の揚を心かりけとの故 後世一音

弁解日

そなたは 弁持くも印り切 仙臺 文芝

道のきりも 杖乃旬のや音の如 信天 香冥

其中のりひらつゝのまよ 大坂 舊國

初はとらしてちまよりく 伊勢 宗尾

葉のさすはうよけく 青白

いふくもや 花死

さうも 故産

さうも 國語

初は乃 素後

くの月 桂舟

因るも 茶川

弁あつて 羅父

題用居

ありに 樗良

んめ 暁臺

蓮葉あふす

川 兒童

ねる月 馬南

その 嵩山

昔代や越後のけしきもつらふくろ  
あま井中晴うりそくもろろろ  
日の清りて里も村の新樹也  
地 蕪村 鳳背 城布

あま伊石味因栗 旬ちやと回  
あまゆや 節も 回一 雜乃多  
加吉川 半捨

片のくろく 六尺くろり 柄の月  
尸もまじりや 沼田の嶺 月  
高坂 五橋 旗園

こまこま かくれ かくれ かくれ  
尾上 織 布舟

あま かくれ かくれ かくれ  
あま かくれ かくれ かくれ  
結城 馬南 雅宅

開のくろくに ねんくろく ねんくろく  
今ねんくろく ねんくろく ねんくろく  
存義

同姓 姓とくろく かくれ かくれ  
音 音とくろく かくれ かくれ  
音 音とくろく かくれ かくれ

あま かくれ かくれ かくれ  
五加木 垣 垣 酒と 買せ たり  
観吏 薩音

あま かくれ かくれ かくれ  
力入く 積つふに たり 孫  
生野 素由 五丸

あま かくれ かくれ かくれ  
あま かくれ かくれ かくれ  
踏仙

山中 瑞峯 隱々 人け 維  
 ちきし ちり ちり ちり 角  
 菜乃 菜の 一 五 ちり ちり ちり  
 谷 けの 橋 度 しく しく しく  
 鳥 帽 子 ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ ぎ  
 極 の 茶 一 條 殿 の きん ちり  
 名 月 や 海 ら ちり き ちり 備 ちり  
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 白 ちり ちり ちり ちり ちり ちり

竹也 涼秀 東走 鬢風 翠極 嘯山 武然 雅因 秀遊 南雅

白 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 達 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 風 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 や ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 様 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 家 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 嶋 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 淵 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 け ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 岡 ちり ちり ちり ちり ちり ちり  
 嶽 ちり ちり ちり ちり ちり ちり

来雨 嵐山 湖柳 二貞 ち董 賜馬 潤李 宜路 芦隱 自在 徳野

菅野  
文皮  
徳圃  
舞岡  
羽五

白濁  
福り  
実  
春  
夏  
秋

鳥羽  
一鼠

月十三

九月十三夜

花  
牡丹  
木樨  
七  
白  
孫  
押

菅野  
文皮  
徳圃  
舞岡  
羽五  
春  
夏  
秋  
鳥羽  
一鼠

勢うぬいそんごうごうゆゆ  
 悼一の音に人も響くや鳥羽の境  
 月ころの中を隔るる鳥羽の  
 旅人より互よぬきつる花さ  
 入初はつちをきくかや三井の杖  
 や入るゆきよ花さくちのふり  
 山ゆりや谷一海乃りよのふり  
 風折くまのし大なるるる花  
 不きさきやわつとれよ一の  
 花待ふりつよまのふり  
 華しるる花のふり

右倅  
 寸馬  
 龜衣  
 叫我  
 入江  
 魯文  
 五泉  
 生佛  
 魚波  
 二柳  
 一鼠

傘らりつりよもむんの来なり  
 津らふ津ちよまの五月の  
 てら平に羊ひやこい秋の松  
 人佛乃るら澄るやまの風  
 りつたに敵のほと通りけり  
 女のよや母つつる花色は作  
 大凡のちり月花や鹿の夢  
 ちりよふか太布乃るる花  
 松一里帰改是きりよるる花

赤羽  
 雄山  
 五東  
 見道  
 浪花  
 二柳  
 儿董  
 恒馬  
 寒秀  
 直生  
 加  
 麥水



未朱紀子ありやほせの竹を 三四

浪華地

さ美し夢こころや西入何 一音

果ありやくねりかたも啼蛙 曉臺

中しにしこもよきふれつれ 樗良

我ものふよおこし何女希也 東武 蓼太

こゝ一岡笑つのもまをと訪ひて

お二句とち

演さやあの中より緑しり 蝶夢

三條へちてこころふれお旅子

ひしらの杖ありしこ

例のこころをりしこりしこ  
冥卿といつる歌を採りて

竹急くあそび終りぬ秋入る 儿董

おつる信花よりよのこ

寺ありし小室よりいれぬうら 舊国

浪神や街及中へちと 蝶夢

らうふせ乃り候やしこふ風流  
とくより合ふれ席を回す  
も今かこころよ人のこころを  
三子 四章とくらつけり

障よのこみらししちも一木小 移竹

みものあひくしこりしき次 太紙

耕り馬おしちけ埃しちよ 呂岐

家名乃ち又やちや悔乃内 達布  
~~~~~  
~~~~~

兼そらう

半馬うい作きのちりてまゐりゆ 几圭

能事まきりあき三十六句

即ちやうけん後へや 衣 燕村

あきりあきりあき床のト 几董

うまきよ竹と簀アサにぬきいで

日記の程あはれなりふりり 村

いそいそ乃ち此更なりあき

何のやうしと備うるうね 董

織多村より續きく秋乃市 村

施りのあきりて常々慶ふ 村

告子に才ある聲や探らん

之より迷へ家弁のたうと 董

路臺と持竹方うきりて 村

此来楽天に州の目馬 村

清う雪おれ井と親しつ

を小使のきくきく 董

京橋中は内法くむ智の月

花さるき等一岡恨乃換 村

ころく抱きききほくはもあ

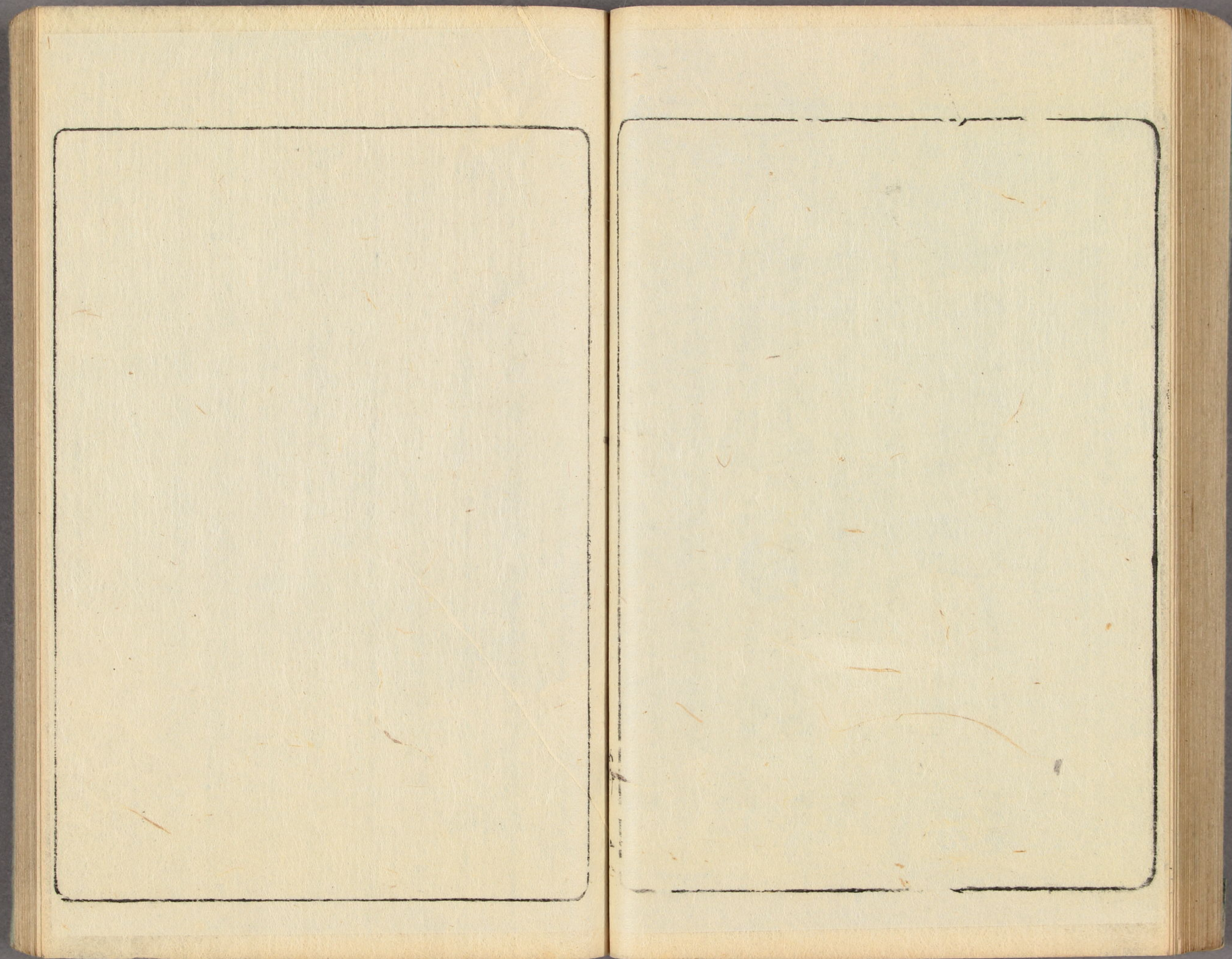
ふとこゝろわくはなれりきりつゝ  
残れ乃痕氣つさるまの枝  
そののゆゑとてさへきつり  
古あゝのつゝもあゝる赤浦  
小社のわしり乃付てね  
こゝろと俗所なる光も  
尚観る一奠のあつるあつたよ  
まゝの麻あゝるやうに  
かたよと禱つゝあゝる  
推の本も月降れ下ゆふり  
龍宮きくち後トはる

董、村、董、村、董、村、董、村

いしてさへひのりの酒とあし  
りしちきり提器ちうさやあゝる  
く指しは所あるあゝる  
あゝる一障へくさゝる  
開れり考なをかたらん  
く下さるるた乃  
あゝるあゝる袖の料たあゝる  
せすの小川乃あゝる

董、董、董、董、董、董

執事



一夜四嗟数端

夜乃りけり倉よりくわきくわきくわきくわき  
をわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
ありくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
さきくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
うわきくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
乃りくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
にりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
ゆりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
うらりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
いりりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき

おれくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき

きりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
りりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
もりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
中りくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
うらりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
つりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
りりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
保りくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
三更りくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき  
りりくわきくわきくわきくわきくわきくわきくわき

く乃小刺ふ川之戸柿乃古ら乃古ら  
き一何ぞおと行とやんも一のんれな  
るもふしけ鶴をくさうりあをそよとあう  
らうにせとと歌一幸一鶴仙ちうり一ゆき  
甘あ

記法 鶴狐庵 蕪村

四歌仙其一

鳥のうらな枝ゆふらんせきり 蕪村  
凡より 乾家あふ乃乃のり 標良  
舟きえて者とるらこの二日月 儿董  
紀ゆり乃 柳候一歩一愛 岸山  
貫之の娘みきき頂あわや 良  
半華一ゆりくも乃乃ゆりハ 村  
こらうりてら信守さるゆらあこ 山  
あもしゆき一乃まなま一ゆ 董  
ゆも路中るせうそ古火補 村

ふくせー 蓮のうわてあたるき  
小きまてやまのなつうー  
さるき乃まはまのき 縣女  
とらき乃幸津乃補せらぬ  
八重のらくー乃 尾乃心 一序  
夫と負ー男鹿きく体とまむ  
とらき乃あま乃乃山  
入籠乃酒のつりーの配乃あひぬ  
五人の敷うら乃乃せーり  
潘仲のま田乃後流のあひぬ  
まらまらのまらー 汁乃白  
良 董 村 良 董 村 良 董 村 山 董 良

松のえいなる乃皆笑のこり  
とらき乃あま乃乃山  
入籠乃酒のつりーの配乃あひぬ  
五人の敷うら乃乃せーり  
潘仲のま田乃後流のあひぬ  
まらまらのまらー 汁乃白  
良 董 村 良 董 村 良 董 村 山 董 良

松のえいなる乃皆笑のこり  
とらき乃あま乃乃山  
入籠乃酒のつりーの配乃あひぬ  
五人の敷うら乃乃せーり  
潘仲のま田乃後流のあひぬ  
まらまらのまらー 汁乃白  
良 董 村 良 董 村 良 董 村 山 董 良

桐傘をさしと巻にとりかへ  
いづれも今もつらぬ垂れや  
何となくそ 秘つて見えざる  
露は乃花みゆりやる夕暮  
藤下 志賀の山やうきん  
董 山 村 良 董

其二

白菊にをゆるりるるをたふり  
汐そりゆるりけさ乃月影  
情馬に秋を涼しくささうりて  
酒ありや 帰乃戸々を  
夜 董 山 村 良 董

小唄きく羽キと 堀乃二所 重  
もこひ乃青花あきりつ  
わけてさへ 山佐と成き身はしを  
群上の君う色にさうさぬ  
中垣乃隠子に蠅の二つこつ  
ちうくも 林乃さうろつま  
くた俤と食草しりあつこ  
戎乃丸やのそつた  
雪下 初さき入らぬ意の月  
枝枝お客入すあ乃杖うり  
あけあつさうれあつる牛一  
董 村 山 良 村 董



不<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>らりきこみん<sub>レ</sub>度<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>も  
ま<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>て  
む<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>り  
ま<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>吳<sub>レ</sub>國<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>頁<sub>レ</sub>こ<sub>レ</sub>ち<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>ぬ  
鼻<sub>レ</sub>へ<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>老<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>智<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>  
く<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>お<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>へ  
小<sub>レ</sub>社<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>海<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>恨<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>一  
花<sub>レ</sub>こ<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>ゆ<sub>レ</sub>かり<sub>レ</sub>佛<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>良  
ら<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>和<sub>レ</sub>切<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>社<sub>レ</sub>冊<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>  
敵<sub>レ</sub>陣<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>わ<sub>レ</sub>平<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>望<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>て  
星<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>光<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>曉<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>も  
董 良 村 山 良 董 山 村 董 良 山

く<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>舟<sub>レ</sub>島<sub>レ</sub>雲<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>失<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>村  
こ<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>花<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>太<sub>レ</sub>刀<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>く  
ま<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>董  
原<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>妻<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>こ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>秋<sub>レ</sub>良  
谷<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>百<sub>レ</sub>里<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>伝<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>梅<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>山  
禰<sub>レ</sub>深<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>舞<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>村  
花<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>火<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>終<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>良  
花<sub>レ</sub>石<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>春<sub>レ</sub>津<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>伸<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>村  
人<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>又<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>老<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>呼<sub>レ</sub>村  
泥<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>尾<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>引<sub>レ</sub>龜<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>良

其三

戀くそて折遠の舟はつね

離くやうと又ほとゆる州

のよやふ菴ひらとを住れく

芥乃乃ととに乃と実ふら

ふたふふ天へくた七の月

生乃選のゆはに道く

古彼ねのうたふ縁つら

さききりつちりあふ男の

ふさけなやあゆの思ひ追れつ

まきとを序終とよもねあす

几童

蕪村

嵐山

樗良

董

山

村

董

良

村

一夜

六

風の夕ややと初ねの徳

羽馬乃と巻の娘一着はる

半ら乃とあやうはるふ地へ

官務の行儀やとこれと

返却し麦やとくも榎ふら

梅乃とととよの白く

女月の露なとととと

ひらり音きとととと

つらりの中もむら子のり

名の傍きらくととと

る部とのとととと

山

良

董

山

村

董

良

村

山

良

董

良家の恩にかのちたしあはれ  
 此頃乃酒の齒より正旅さうた  
 尾をうむや乃名を火とさう  
 山賊乃月夜に塚とあまふん  
 ころやあゝの虎乳るをり  
 やしあまきういひいふ国子  
 ぬ乃さうさうよりさゆら  
 来さ事一草さうさうにさうさ  
 老さう人乃松明さうしり  
 尾さあま牛の病けさやかう  
 変化退治乃あまの帯さ  
 良村董良村董良村董良村董

雫乃あの中門をひらきくら  
 行のいさるやむれあさう  
 舟のれらる花ん男のあさう  
 さうさうとあさうけさうら風  
 山良村董

其四

花ふらうさうさうさうさう  
 やうさうあま乃垣れさう  
 宿新乃宿活のあまあさう  
 院備さうさう連歌一物  
 鯉舟に十三日のあさう  
 山八董

標良

嵐山

蕪村

八董

山

鹽とあつた 門コ乃 半  
いふふ長旅乃 中傳と連う  
志 浮乃とも石乃 影うつく  
おまゝるゝまに 枯る 枯一又  
画具の血一 裾引り 子  
うゝまの かけもくしに 味くそ  
あゝゝゝ一 志の 一音 け 百の 月  
と加 茂乃 ちひや 四ふ ちひや  
そ 花乃 ちひや 麗 意の ちひや  
白 後乃 被う ちひや ちひや  
ちひや ちひや 宇 佐の 神 無 月 あり  
村 董 良 山 董 村 山 良 村 董 良

ら ちひや ちひや 美 ちひや ちひや  
梳 ちひや ちひや ちひや ちひや  
素 園子 三日の 糧と ちひや ちひや  
遊 女と 隠れ ちひや ちひや ちひや  
滅 之の ちひや ちひや ちひや ちひや  
ちひや ちひや ちひや ちひや ちひや  
ちひや ちひや ちひや ちひや ちひや  
新 屋と 霊の 給 け ちひや ちひや  
徒 信 伝 ね 乃 ちひや ちひや ちひや  
月と 傳 乃 縁の ちひや ちひや  
せの ちひや ちひや ちひや ちひや  
董 良 村 董 良 村 董 良 村 董 良



ちよせしつひねむるもさるるけつるる海  
 淋瀝してやが乃一舟船をさるし言ふ  
 一舟と吐所溜物尾とも一船と結るるら  
 するも門下の二三子才二廿甲いつけゆく  
 やうに二十六句にこそあはれいふらうの  
 に附く別花も毎一題ありて一色殊  
 物乃融と謝まじくしつま

壬寅年 月

無付減口

花標帖

浦里のらくく咲多り海苔の味 大石 士川  
 花とらり 浪花 雄山  
 お乃 柳子うらむ 花書 大井川 延年  
 昔 城 中 大和 河来  
 くらきりお垣と仕 花の 花 大石 佳則  
 昔 花 宇治 胡柳  
 花 丹三 野菊  
 花 東 路景

家任あしりく花子待二百カト如水  
まふれいこふ一樹めさく大和守明  
俤きふ俤く月夜の橋りぬ 正巴  
つふ都くくぬいむらるま島 湖宮  
月のまらたあらしりく十六う光  
まふいしきくしりぬたのけ大古士番  
舟乃しりくしりくしりくしりく 我則  
花さくしりくしりくしりくしりく 熊二  
来りしりくしりくしりくしりく 佳榮  
柳さくしりくしりくしりくしりく 吾琴  
花さくしりくしりくしりくしりく 青荷

花さくしりくしりくしりくしりく 古好  
しりくしりくしりくしりくしりく みるの  
りまらけ遠巡りしりくしりく 金篁  
よのまらけしりくしりくしりくしりく 春坡  
ちれいりくしりくしりくしりくしりく 心頭  
俤きふふふふふふふふふふ 銀獅  
いろしりのくしりくしりくしりく 小と  
まらけしりくしりくしりくしりく 菅鳥  
しりくしりくしりくしりくしりく 儿董  
花のりりりりりりりりりりり 松化  
まらけしりくしりくしりくしりく 雪居

友さくふふ集を追ふ一確り集  
 鄰人乃鬻く作してさくふ  
 さくふ笑中や舞まう飯くうり 宮ッ  
 みのふゆぢ人休ゆすらくうり 維駒  
 老てれらくうり花うりさうれくる 榊女  
 花さくうりや櫻らうきまうり 桃葉  
 漏法乃うこくぬらうふさくうり 附鳳  
 舟ゆす入日乃ふかのらくうり 大石 曾雨  
 折くうり花乃葉と出路 東助  
 様うりうの本され本乃一様 まき女  
 舟ゆす遠山さくうり 吞獅

おのりやむり一真あふまはのむ 徳野  
 きのしちりらくうり 文皮  
 甲さくうり雪さくうり 石松  
 花うり 百樓  
 心の事 紫洞  
 一山や花の縁ふ口乃 天石 士巧  
 ろくうり 菊十  
 ちりうてにく 慶子  
 花の縁 巴江  
 岩水へ 雷子  
 さくうり 五雲



ぬけろやさくくちりけくちり水 之兮  
 ぶらり隣に月島のまにちか 尼崎 春洲  
 正らやひるやうまのれ傍ま 僅 秋来  
 娘ふまひてふれはくふ笑にたり 一冬 東瓦  
 白雪の根とみりしかりらくく苗 眠獅  
 坂くふほ及びるをとまてく 自笑  
 山おろしきくもまや花の宿 三角  
 早報乃春にあつるや秘く 和流  
 残のまくく笑たりニ 海 来屯  
 まに乃花路まよ午の貝 里由

良字乃居あふ 清六  
 さいりら桂 百池  
 日わしやい真をま 公遠  
 先キ(あそ)反にまのつやむ乃山 文長  
 新産もや 婆雪  
 途に 存同  
 必 月居  
 夕 正名  
 形 通介  
 ち 梅幸  
 古 高子  
 布舟

片袖いぢりてくろくろく  
 ひらくもくしんのひきやぶらく  
 花はうりくのりしろく入りうめ  
 美ららのゆもきまなむさくく人  
 さくく笑ふくくくくくくく  
 社家町の門おぬりくくく  
 指りてぬくくくくくくく  
 入るるくくくくくくく  
 花房花用花解  
 画数子日在君家  
 入り乃酒賣つてて花乃流  
 其谷 魚赤 田福 梅亭 豎子 里曉 吉 舊国 知佳庵 卧央 坤 道立

十ま街

花よ酒汗し牛のひくく  
 うもたきくくくくく  
 一休舎表にふたぬ  
 まふら月もまふくくく  
 花の衣はくくくく  
 後集田糸乃くくくく  
 暮 曉 暁 暁

こゝろにこそよきし  
修海も悟のうらみむ

こゝろにこそよきし  
はたけくも

は少きふて下志保の流儀し  
佐竹の作家ふありし流儀のうらみ  
よみゆきわとよむその一あつとよみ  
うらみも鳥尾相のうらみとよみ  
一曲のよきもよきと艶もよき

右の又い共角り鳥尾夢にまきし  
伽澄の一枚紙宛ともよきしとよみ

そのれうこころに候酒ふりし  
おぬえとよきとよみとよきとよきとよき  
仕舞のうらみとよきとよきとよきとよき  
こころにこそよきとよきとよきとよきとよき  
昔も仕舞のうらみとよきとよきとよきとよき  
こころにこそよきとよきとよきとよきとよき  
河指はうのうらみとよきとよきとよきとよき  
こころにこそよきとよきとよきとよきとよき  
こころにこそよきとよきとよきとよきとよき  
に地終るまよきとよきとよきとよきとよき



ちとぎんいふ鬼村もたつた  
やうにやちからまきゆつと  
はと徳乃ふつとつた  
ふか通群乃種乃くは  
葉乃千凡白乃のこつ  
花乃やんるる花乃あ  
花乃乃やんるる花乃あ  
変化趣うは花乃あ  
あつらまのららるる  
呉楚乃乃

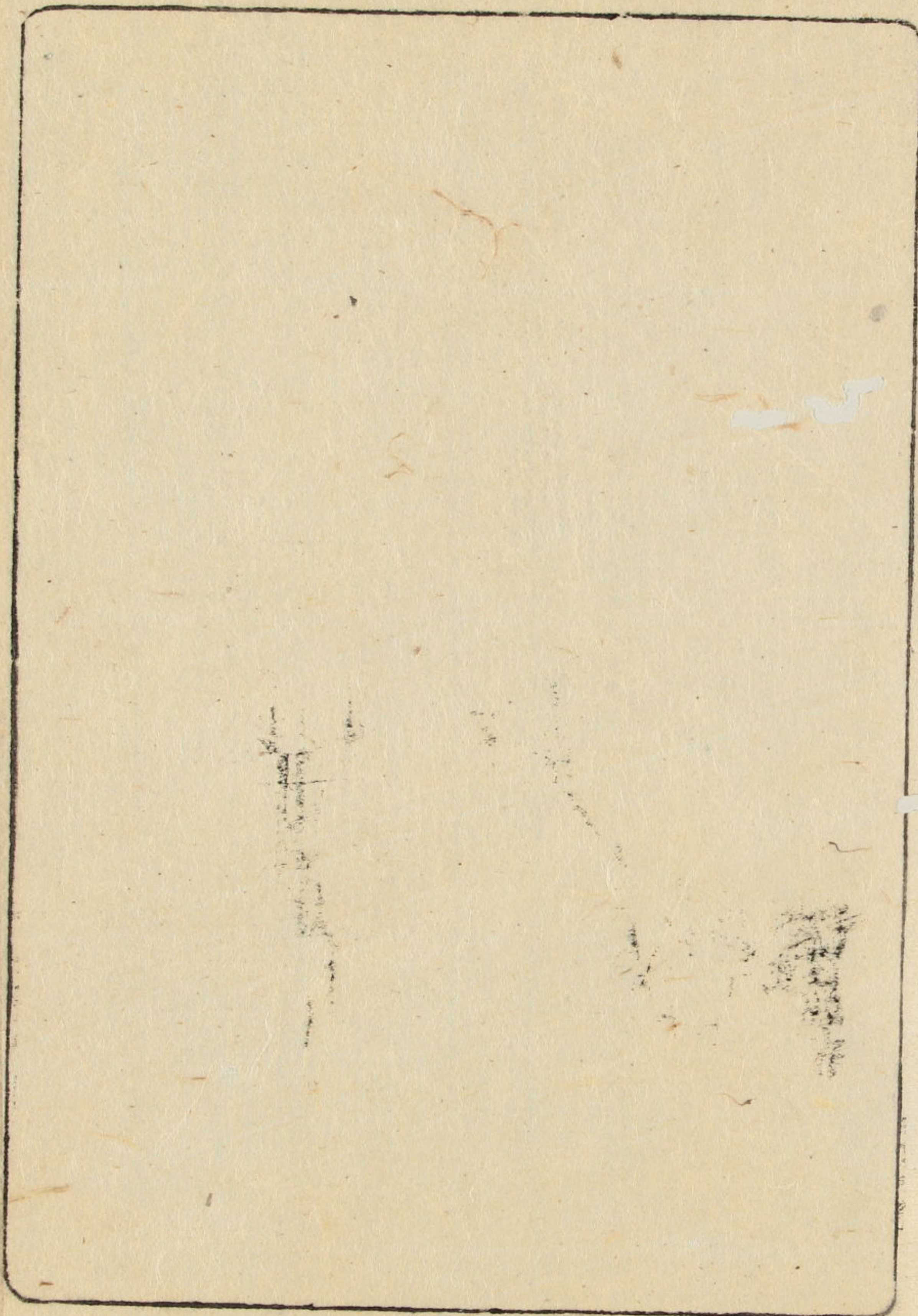
宗因  
蕪村  
児童  
百地  
佳棠  
金堂  
湖柳  
湖當  
田福  
我則

琴とこ枯群れまよこつ  
級乃まらるるへ  
琴とこ枯群れまよこつ  
柳乃たつりふ  
中車乃れ  
紙乃くま  
こころふ  
右乃林の  
歌乃の  
まらるる  
ささるる

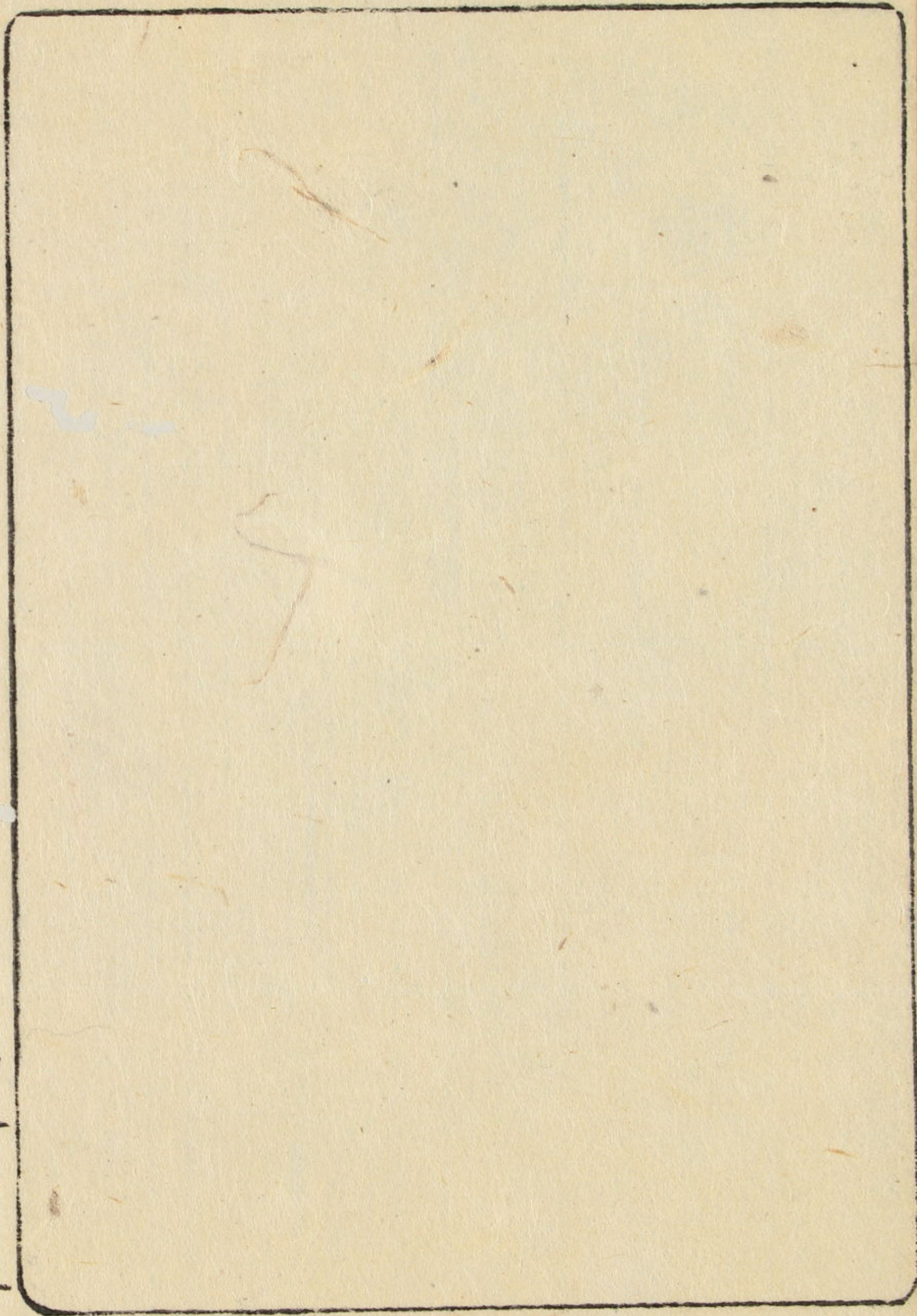
之兮  
是岩  
三  
正巴  
維駒  
吾琴  
月君  
養鳥  
歌  
銀師  
自笑

うーや 鏡乃ききと 踏 刻系 佳棠  
 遠くそそり 舟乃良と ちんらん 春坡  
 ト部乃 家と ぼぐ子こくり 几董  
 まらけ 船乃 指あや ちんらん 雪居  
 えと はえん せしき ぬらけ 老雨  
 秋あさる 秋と 暁きに 投いそ 蕪村  
 之 妻 無乃 舞の 下と 賣 百他  
 ほろしと ちんらん の 中よ 然の 月 魚赤  
 うめ ちんらん 舟と 焚火は 由さし 春坡  
 花 舞 舞 一 肩の ちんらん 松化  
 ちんらん ちんらん ちんらん ちんらん

文 同 ちんらん ちんらん の ちんらん 蕪村  
 ちんらん ちんらん ちんらん ちんらん 率町  
 俯あつちんらん の ちんらん の ちんらん 通立  
 ちんらん ちんらん ちんらん ちんらん 吞柳



一  
九



極楽亭

つうのちふうまきんや行軍の平徳ありまらぬ  
うせぬまらふのちりあ一人行軍もたあふんこ  
まく物して回せり行軍のしやうもあはれり  
らくの徳れしやうかへん余りて同支徳路の活  
るや舞に流りしやうに徳のしやう  
一園郭しやう徳しやう徳しやう走らるる  
のちしはかへんまの徳しやう徳しやう  
以てちるるまらぬやうなみみか胸懐さうし  
はの徳しやうてまらぬまの徳しやう徳しやう  
らるるまらぬまの徳しやう徳しやう  
蕪村識

牡丹花をすくさうりぬ二二片

蕪村

おのりサりのちんちんりり

凡董

すくさうり翁やりりりり

、

争入るるふんちんちんちん

村

と一所の街の徳しやう

、

百里乃陸地をすくさうり

董

平徳壘<sup>フコリ</sup>をすくさうり

、

山田のよ田入りの徳しやう

村

夕あふりりりりりりり

董



竹とらうしめひこひりくふ依  
月とらうしめひこひりくふ依  
常麻へかきとひらふたに又  
清くしめひこひりくふ依  
三尺つらるる雪けしきりき  
解りくもる狼うらふあつん  
免唇の葉入きくほふあ  
種持あるむれくふあまわ  
けりてゆへゆのふりふり  
終るこの強音こむまをり  
情士のこむりくふあまわ

村董 村董 村董 村董 村董 村董 董

栗負し馬倒しぬとく  
標心なる 野 八  
まあか虹子ほ同乃うらり  
勅使乃序者ヤうれ  
けな獲る貴の魚乃腹あふ  
日へりたるく又あつれ  
えー進れ見ぬりあふき  
ほりたるさうくく  
十六和の晴よひりくふ依  
こころあつる 着場 ね  
馬早の持ぬきぬぬぬぬ

村董 村董 村董 村董 村董 村董 董

夢の精もあらうらき  
崇りたる田中の小社  
祀りて  
既りてまじり公も  
色  
あふらしたるに張  
筆の行飯とけ  
やうらわやうら  
まれとて火  
董、村董村

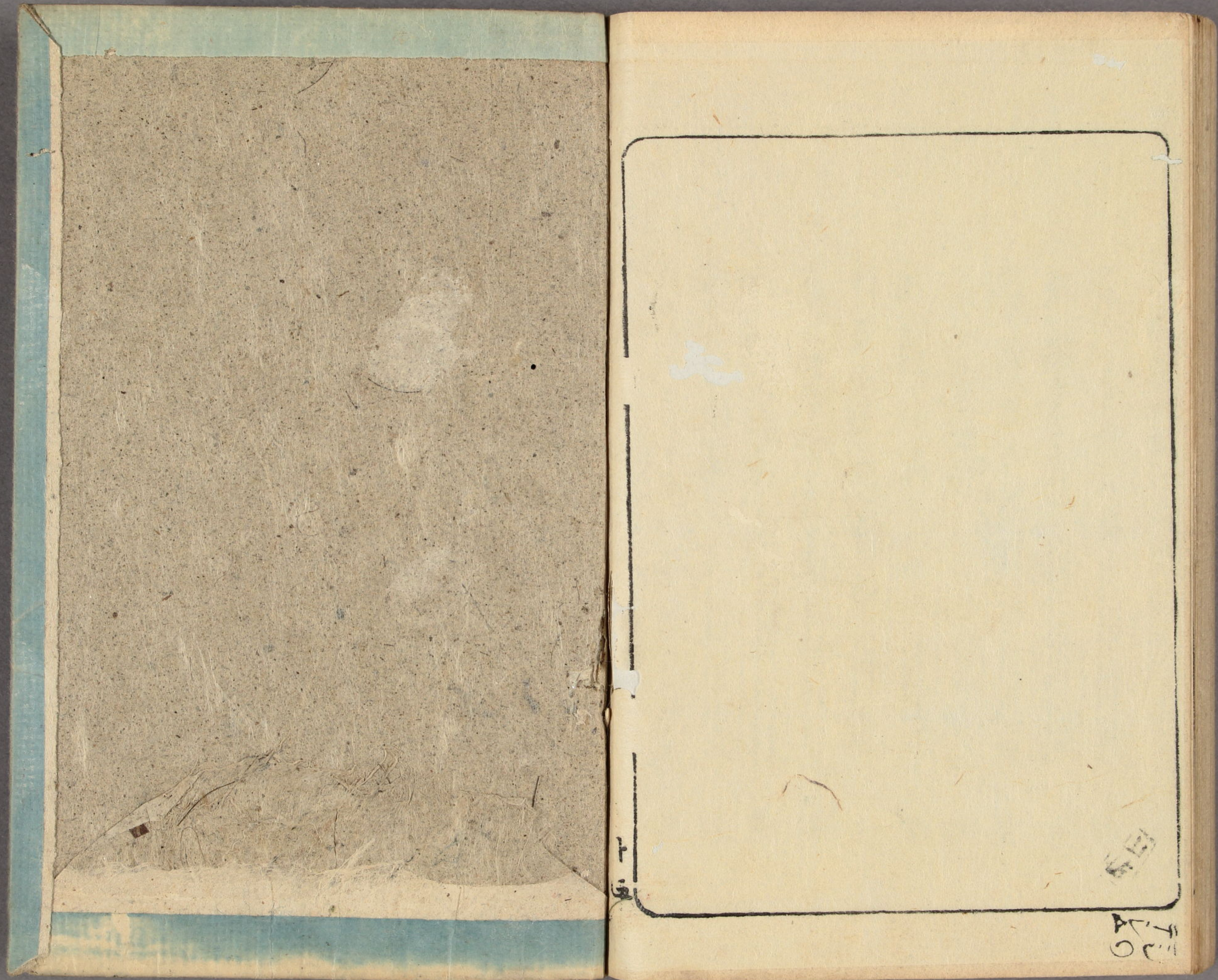
冬もあら月骨籠り入  
夜小  
村  
村  
五里の一舎うら  
た使者とて  
井の水  
董  
三

二の月入道きま  
ふうらね  
七つ路り入り  
門敷くま  
村  
女狐のほろよ  
ねとて人  
所  
村  
出航つたふや  
追分、下  
村  
村董

床のこもり 卧も 孤州のふ  
 文礼のむす子 維摩 經  
 影南とと 入 遅き日の 影  
 都人の妻に せられ 旅るま  
 らし 残りし 酒を 一たん  
 荒れ 柳子 花の 鶯啼  
 中 飛脚 せや  
 保 任し せや せん  
 い せや せん  
 こ せん せん せん せん  
 村 董 村 董 村 董 村 董 村 董

西園のふ形 せや 小日のふ  
 貧し 花 葉の 足るや には  
 片側 川 流る 杖乃 風  
 月の 影 せん 遠き せん  
 傳き せん せん せん せん  
 相 國乃 磔 せん せん  
 ほ せん せん せん せん  
 瘞 乃 せん せん せん せん  
 根 継 せん せん せん せん  
 葉 せん せん せん せん  
 村 董 村 董 村 董 村 董

安永九庚子冬霜月



12

12

